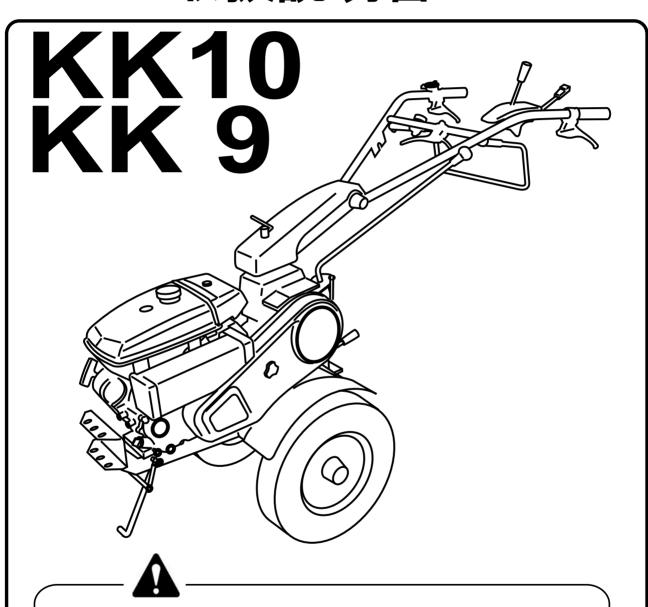
ヘルパー

管理作業機

取扱説明書



当製品を安全に、また正しくお使いいただくために必ず本 取扱説明書をお読みください。

お読みになった後も必ず製品に近接して保存してください。



操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために、操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですのでよく理解して戴き誤操作のないように注意してください。

STOP	エンジン停止	〜 チョークレバー	
		ガソリン燃料	
			
	專門	用語の説明	
0	燃料コック[開]	C 燃料コック[閉]	

本製品の使用目的について

本製品は、農業用機械ですので農作業以外では使用しないでください。 使用目的以外の作業、また夜間作業や改造はしないでください。 使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。 (詳細は保証書をご覧ください。)

はじめに

このたびは本製品をお買上げいただきましてありがとうございました。

この取扱説明書は、製品の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明しています。

で使用前によくお読みいただいて十分理解され、お買上げの製品が優れた性能を発揮し、かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。

また、お読みになった後必ず大切に保管し、分からないことがあった時には取出してお 読みください。なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行うことがあ ります。その際には、お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合があります ので、あらかじめご了承ください。

▲ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に張られた **企**の表示がある警告ラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。

なお、警告ラベルが汚損したり、はがれた場合はお買上げの販売店に注文し、必ず所定 の位置に貼ってください。

■注意表示について

本取り扱い説明書では、特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について次のように 説明しています。

▲ **危険**:注意事項を守らないと死亡または重傷を負うことになるものを表示します。

▲ 警告:注意事項を守らないと死亡または重傷を負う危険性があるものを表示します。

注意:注意事項を守らないとけがを負うおそれがあるものを表示します。



洗浄時の注意

▲ 安全に作業するために	-	
機体方向の説明	! -1	自動車(トラック)
諸注意事項	! -2	
警告ラベルと貼り付け位置	: 2 ! -6	
言日グツルと知り付け位直	: 0	
サービスと保障につい	<u>⊤</u>	
		主要諸元
各部の名称と装置の取	<u>汲い</u>	
各部の名称	2	トラ
作業前の点検		
ボルト・ナットの点検	3	
給油•注油	3	
エンジンオイル	3	
燃料	4	
ミッションオイル	4	
エアクリーナー	5	
ホイルチューブと車軸の間	6	
レバー支点	6	
ケーブル類	6	
運転のしかた		
始動のしかた	6	
停止のしかた	7	
発進のしかた	8	
進行方向と変速	9	
ハンドル高さの調節	10	
ハンドルの旋回	11	
<u>管理機の簡単な手入れと</u>		
廃棄物の処理について	13	
エンジンオイルの交換	13	
ミッションオイルの交換	13	
排油のしかた	13	
エアクリーナエレメントの清掃とオー		
の交換	14	
燃料フィルタの清掃	15	
点火プラグの調節・清掃・交換	15	
ベルトテンションの調整	16	
ブレーキレバーの調節	17	
ハンドル上下レバーの調節	17	
スロットルレバーの調整	17	
使用後の手入れ	18	
エンジン始動不良を防ぐために	18	
長期保管時の手入れ	18	
燃料の抜取り	18	

19

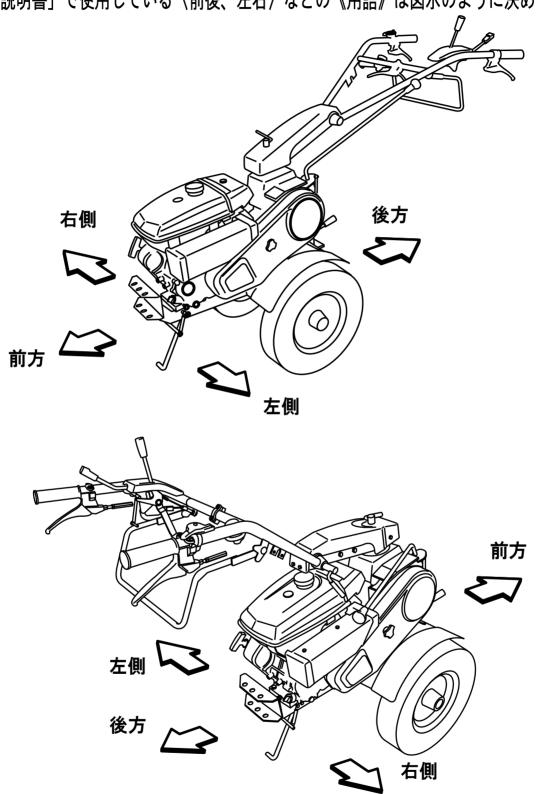
を運搬する時 への積込み、運搬

20

付表

ルと処置

本機をご使用になる前に、必ず「取扱説明書」をよく読み、理解した上で安全な作業をしてください。この「取扱説明書」で使用している〈前後、左右〉などの《用語》は図示のように決めています。





管理機の取扱いは正しく、ちょっとした油断がもとで、思わぬ事故を招くことがあります。安全で効率的な作業を行うために、次のことをお守りください。

A

、危険 以下の項目に該当する人は、機械を使用しないでください

- 1. 飲酒時や体調の悪い時、または妊娠中の人
- 2. 本書及びラベルの内容が理解できない人
- 3. 視力不足などのため表示内容が読めない人
- 4. 16歳未満の人
- 5. ハンドルを操縦する体力に自信のない人

〈守らないと〉

死亡事故や重大な傷害、機械の破損を招く恐れがあります。



危険 作業に適した服装

- 1. はち巻・首巻・腰タオルは厳禁 3. ヘルメットなどの防護具の着用
- 2. だぶつきのない服装

〈守らないと〉

機械に巻き込まれたりして重傷を負う危険がありあます。



危険 他人に機械を貸すときは取扱い方法を説明する

取扱い方法を説明し、使用前に取扱い説明書を必ず読むように 指導してください。

〈守らないと〉

死亡事故や重大な傷害、機械の破損を招く恐れがあります。



危険 機械の改造禁止

純正部品や指定アタッチメント以外の部品を取付けないでください。 機械を改造しないでください。

〈守らないと〉

死亡事故や重大な傷害、機械の破損を招く恐れがあります。



注意 点検・整備を行う

機械を使う前と後には必ず点検・整備をしてください。 定期の点検・整備は必ず受けてください。

〈守らないと〉

自己・ケガ・機械の破損を招く恐れがあります。



音 ロータリー作業ではダッシュに注意

土が硬かったり石の多い場所ではロータリーをゆっくりと地面に下ろしてください。回転する爪の勢いで機械が思わぬ方向に飛び出す(ダッシュ)することがあります。

〈守らないと〉

傷害事故を引き起こす恐れがあります。



危険 ハウス内での作業は換気を充分にする

排気ガスが充満しないように充分に換気を行ってください。

〈守らないと〉

排気ガス中毒を起こし、死亡することがあります。





警告 子供を近付けない

子供には十分に注意し機械に近づかせず絶対に触れさせないでください。

〈守らないと〉

傷害事故を引き起こす恐れがあります。

A

告 作業機を装着するときは、作業機の取扱説明書を読む 作業機を装着するときは、事前に必ず作業機の説明書をよく読んで 理解してください。

〈守らないと〉

傷害事故や機械の破損を引き起こす恐れがあります。

A

告 作業機の脱着は平坦な場所で行う

作業機の脱着は平坦で安定した場所で行ってください。 夜間は適切な照明をしてください。

〈守らないと〉

傷害事故や機械の破損を引き起こす恐れがあります。

A

溝、あぜ越えは、アユミ板を使用する

ほ場に入るとき、溝、あぜを渡るときや軟弱な所を通るときは幅 長さ、強度の充分にあるアユミ板を使用してください。

〈守らないと〉

転倒やスリップによる事故を引き起こす恐れがあります。



注意 点検・整備は平坦な場所で行ってください

点検・整備は機械が倒れたり、動いたりしない平坦で安定した場所で タイヤに輪止めをして行ってください。

〈守らないと〉

機械が転倒するなど、思わぬ事故を招く恐れがあります。



音告 点検・整備中はエンジン停止

点検・整備・修理または掃除を行うときはエンジンを停止させて行って ください。

〈守らないと〉

機械に巻き込まれたりして重傷を負う危険があります。



告カバー類は必ず取り付ける

点検・整備などで取り外したカバー類は必ず元通りに取付けてから作業してください。

〈守らないと〉

機械に巻き込まれたりして重傷を負う危険があります。

A

告 下にもぐったり、足を入れない

ロータリーの点検・整備をするときは、下にもぐったり足を踏みこんだり しないでください。

〈守らないと〉

ロータリーが下がったとき傷害事故を負う恐れがあります。





众危険 燃料補給・注油時は火気厳禁

燃料を補給する、あるいは機械に注油する際はエンジンを停止させ てください。また、くわえタバコでの作業、裸火照明の下での作業は 絶対にしないこと。

〈守らないと〉

燃料に引火し火災を引き起こす恐れがあります。



燃料キャップを閉め、こぼれた燃料はふき取る

燃料を補給した後は、燃料キャップを確実に閉め、こぼれた燃料をき れいに拭き取ってください。

〈守らないと〉

燃料に引火し火災を引き起こす恐れがあります。



危険 排気ガスには充分に注意する

閉め切った室内ではエンジンを始動しないでください。 エンジンは風通しの良い屋外で始動してください。やむをえず屋内で 始動する場合は充分に換気してください。

〈守らないと〉

排気ガス中毒を起こし、死亡事故にいたる恐れがあります。



マフラーの高温に注意

運転中及びエンジン停止直後のマフラーは高温です。 触れないでください。

〈守らないと〉

ヤケドをする恐れがあります。



マフラー、エンジン周りのゴミは取り除く

ー、エンジン周辺にゴミ、ワラクズ、燃料が付着していないか作 業前に点検し、付着している場合は取り除いてください。

〈守らないと〉

火災を引き起こす恐れがあります。



坂道、アユミ板の上での変速禁止

適正な変速段を選択し、坂道やアユミ板の上では主クラッチを切ったり 変速をしないでください。

〈守らないと〉

事故を引き起こす恐れがあります。



エンジン始動時は周囲の安全を確認する

いることを確認してください。

リコイルの引き方向に人や障害物、突起物がないか確認してください。 また、周囲に人を近付けないでください。

〈守らないと〉

傷害、事故を引き起こす恐れがあります。



Λ

注意 発進、作業時は以下のことに注意してください

車速の最低速で主クラッチの「**入**」はゆっくり行い、「切」は素早く操作できるよう習熟した上で使用してください。

小走りになるようなスピードを出したり、急発進、急旋回は行わない でください。

〈守らないと〉

事故を引き起こしたり、傷害を負う恐れがあります。

4 警告

移動する際はロータリーを停止させる

移動するときはロータリークラッチレバーを「切」にしてください。

〈守らないと〉

機械に巻き込まれたりして重傷を負う危険があります。

A

音告 運搬には天井のない車を使用する

運搬には荷台に天井のない車を使用してください。荷台の上ではエンジンを切り手で引き出ししてください。

〈守らないと〉

ハンドルと天井にはさまれたり、転落したりして傷害を負う恐れがあります。



積み降ろしに用いるアユミ板は機体重量に充分に耐え、滑り止めの ついたものを使用し確実に固定してください。

荷台の高さが「1」に対しアユミ板の長さが「**4以上**」になるものを使用し てください。

積み降ろしは平坦な場所で行い周囲に人や障害物がないことを確認し、最低速で上りは「**前進**」下りは「**後進**」で行い、途中で主クラッチを切ったり、変速操作を行わないでください。

〈守らないと〉

転落などの事故を引き起こす恐れがあります。



注意 格納するとき

機体に保管用シートを掛ける場合は、マフラーやエンジンが充分冷え てから掛けてください。

火災予防のため、ワラ・草等可燃物のある場所での保管はしないで ください。

〈守らないと〉

火災事故を引き起こす恐れがあります。



注意 夜間作業の禁止

本機には夜間作業灯を装備しておりませんので夜間作業を行わないでください。

〈守らないと〉

事故を引き起こしたり、傷害を負う恐れがあります。

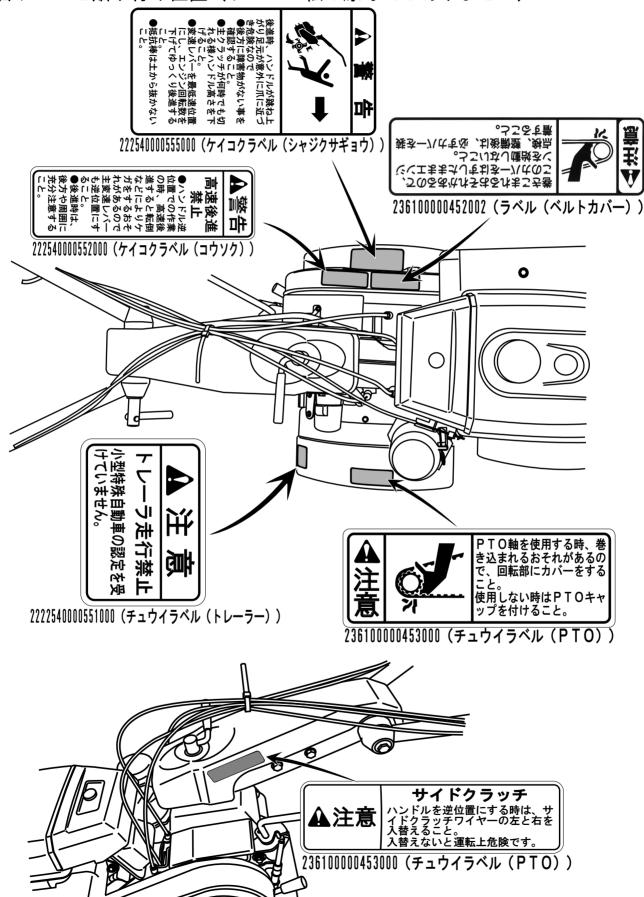
廃棄物の処理

廃油やゴム類、その他の有害物を廃棄または焼却するときは、購入 先、又は産業廃棄物処理業者に相談して、所定の規則に従って処理 してください。

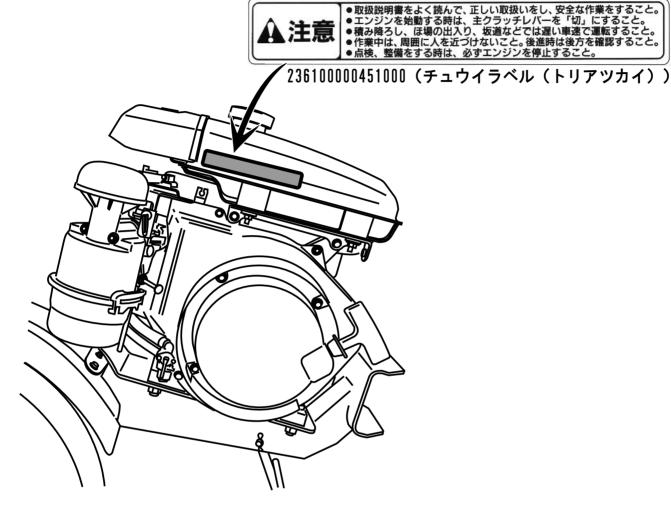
〈守らないと〉

みだりに捨てたり、焼却すると法令により処罰されることがあります。

警告ラベルと貼り付け位置(ラベルの絵は原寸ではありません)



警告ラベルと貼り付け位置 (ラベルの絵は原寸ではありません)



表示ラベルの手入れ

- ●ラベルは、いつでもきれいにして傷つけないようにしてください。 もしラベルが汚れている場合は、石鹸水で洗い、柔らかい布で拭いてください。
- ●高圧洗浄機で洗車すると、高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接 ラベルにかけないでください。
- ●破損や紛失したラベルは、製品購入先に注文し、新しいラベルに貼り替えてください。
- ●新しいラベルを貼る場合は、貼り付け面の汚れを完全に拭取り、乾いた後、元の位置に貼って ください。
- ●ラベルが貼り付けられている部品を新部品と交換するときは、ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証について

この製品には、保証書が添付してありますので、ご使用前によくご覧ください。

■アフターサービスについて

ご使用中の故障やご不審な点及びサービス についてのご用命は、お買い上げの販売店又 は直接当社にお気軽にご相談ください。

- その際 (1)型式名
 - (2) 車台番号(製造番号)
 - (3)エンジン番号
 - (4)故障内容(できるだけ詳しく)
 - どのような作業をしていましたか
 - どのくらい使用していましたか (アール、又は時間)

▲警告

機械の改造はしないでください。改造する と機能に影響を及ぼすばかりか、人身事故 につながる恐れもあります。

改造した場合や取扱説明書に述べられた正 しい使用目的と異なる使用を行った場合は メーカーの保証の対象外になりますのでご 注意ください。

◆認定番号

安全鑑定の農機型式及び番号が必要な場合は、 下記の型式名及び番号をご使用ください。

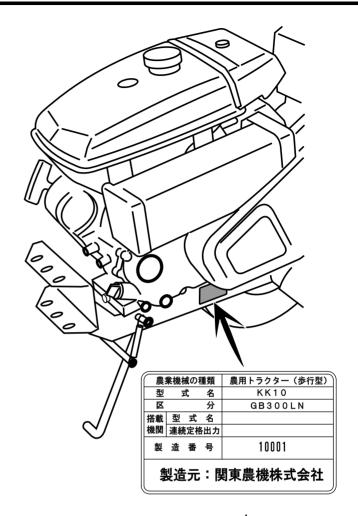
販売型式名	KK10	KK9
農機販売型式	KK10	KK9
安全鑑定番号	申請中	申請中

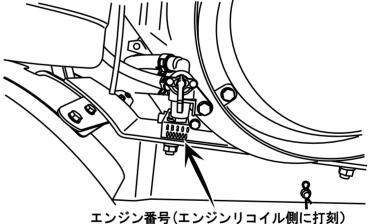
■補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期限)は製造 打ち切り後9年といたします。

ただし、供給年限内であっても特殊部品につきま しては、納期等についてご相談させていただく場 合もあります。

補修用部品の供給は原則として上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていだだきます。





▲ 警告

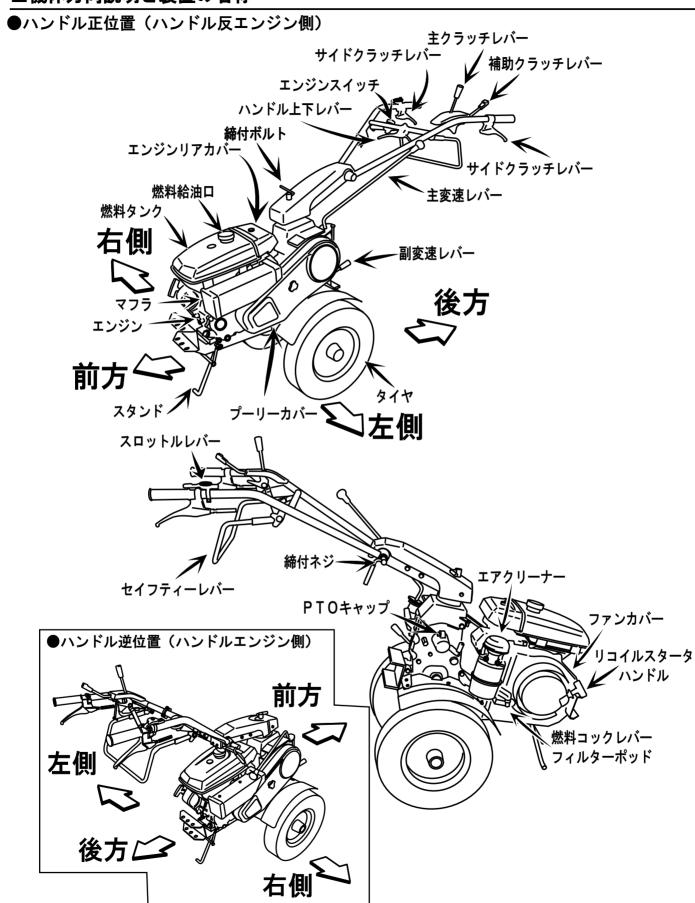
トレーラ走行はできません。

小型特殊自動車の認定を受けておりません。 一般行動を走行すると、道路運送車両法に 違反します。

一般公道を移動するときは、自動車(トラック)に積んで運搬してください。

各部の名称と装置の取扱い

■機体方向説明と装置の名称



作業前の点検

▲注意

- ※ 平坦な場所に機械を安定させ点検してください。
- ※ 点検はエンジンを停止させ、エンジンやマフラーがじゅうぶんに冷えてから行ってください。

▲警告

- ※ 給油するときはエンジンを停止し、エンジンやマフラはじゅうぶんに冷えてから行ってください。
- ※ 火気厳禁。くわえタバコでの給油は絶対にしない。
- ※ 燃料がこぼれたときはきれいにふき取ってください。
- ※ 燃料は規定量(赤色ゲージ)以上入れないでください。
- ※ 給油後、燃料キャップはガソリンがもれないようにしっかり締めてください。
- ※ 上記の作業をおこたると、爆発・火災のおそれがあります。

重要

■ポルト・ナットの点検

エンジン・ホイールハブ・ハンドルなどの各部取付ボルト・ナットの締付けを点検します。

重要

■給油・注油

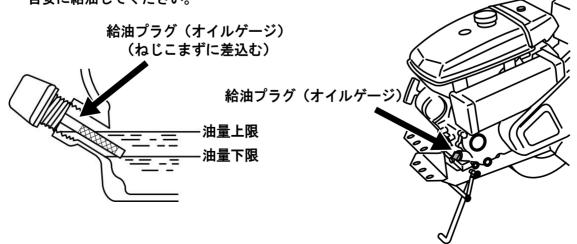
工場出荷時、各給油箇所にはオイルが入れてありません。

下表にしたがい給油・注油してください。

給油箇所	種類	容量	交換時期
エンジン(GB300/GB290)	エンジンオイル 10W-30	1.00	毎日点検50時間毎交換(新車25時間)
燃料タンク	自動車用無鉛レギュラーガソリン	5. 4 l	
ミッションケース	ミッションオイル #90	4. 3 l	毎日点検50時間毎交換(新車20時間)
エアクリーナー	エンジンオイル	O∣L↑LEVEL線まで	毎日点検50時間毎交換
ホイルチューブと車軸の間	グリース	適量	毎日注油
レバー支点	グリース	適量	毎日注油
ケーブル類	エンジンオイル	適量	毎日注油

◆エンジンオイル

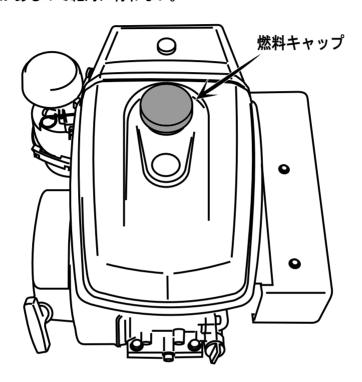
- ●エンジンを水平にして給油し、オイルゲージで規定量あるか確認します。
- ●不足している場合、エンジンオイル10W-30を補充します。(ガソリンエンジン用)
- ※ オイルゲージはねじ込まずに使用します。
- ※ 出荷時にエンジンオイルを抜き取っていますが構造上抜ききれないオイルが内部に残存しています。 規定量(1.00)給油しようとするとあふれる場合があるますので、オイルゲージの規定容量を 目安に給油してください。



作業前の点検

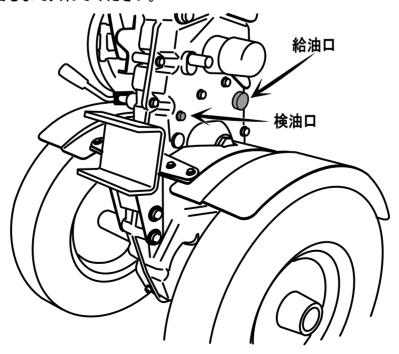
◆燃料

- ●機体を安定させて燃料を入れてください。
- ●燃料は自動車用無鉛レギュラーガソリンを補給します。
- ●機械を一ヶ月以上使用せずガソリンを入れたままにしてしまった場合、タンク、キャブレター内のガソリンは排出し新しいガソリンを給油します。古いガソリンを入れたまま始動すると故障の原因になります。
- ●タンク容量5. 4 ℓ (給油口フィルターの赤色ゲージ以下にします)
- ●ガソリンは法律で認められた携行缶で持ち運びます。ペットボトルなど法で認められていない容器を使用すると故障や火災の恐れがあるので絶対に行わない。



◆ミッションオイル

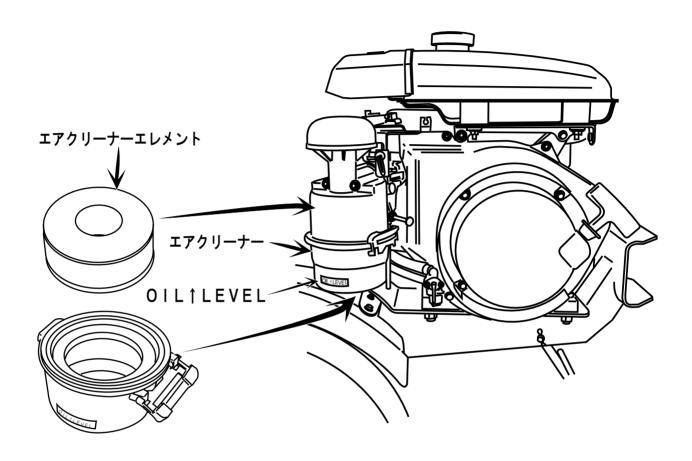
●ミッションケース側面の注油口からミッションオイル(#90)を給油します。 オイルは検油口から出るまで入れてください。



作業前の点検

◆エアクリーナー

- エアクリーナーにオイルを入れます。(エンジンオイル)
- エンジンオイルはOIL↑LEVELまで入れてください。
- エアクリーナーエレメントにゴミが付着していないか点検します。



◆ホイルチューブと車軸の間

● ホイルチューブと車軸の固着を防ぐため、ホイルチューブと車軸の間にグリスを塗布してください。

◆レバー支点

● 各しゅうどう部にグリスを塗布します。

◆ケーブル類

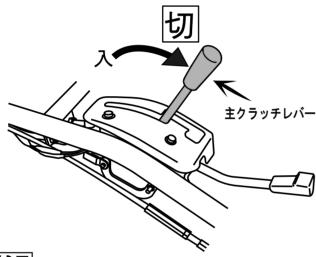
● エンジンオイルを注油してください。

▲注意

- ※ マフラの排気方向に燃えやすい物がないか確認してください。火災のおそれがあります。
- ※ リコイルスタータを引っ張る方向に人がいないか、突起物・障害物がないか確認してください。傷害事故のおそれがあります。
- ※ ヤケド注意。エンジンの作動中また停止後しばらくはマフラやその周辺が高温になっています。操作レバー以外の部分に触れないでください。ヤケドや傷害のおそれがあります。
- ※ 夜間作業は行わないでください。
- ※ エンジンを始動するときは、主クラッチレバーを「切」にしてください。

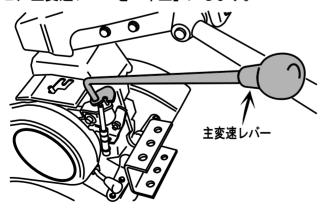
1. エンジンの始動

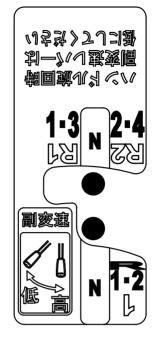
1) 主クラッチレバーが「切」になっていること を確認します。



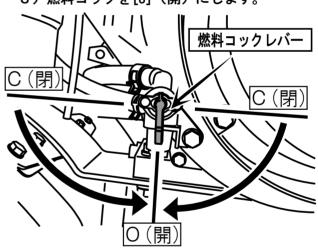
補足

- ※ 主クラッチレバーが「入」の場合始動牽制装置が作動しエンジンが始動しません。
- 2) 主変速レバーを「中立」にします。

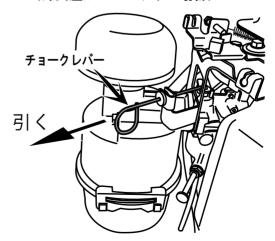




3) 燃料コックを[0] (開) にします。



4) チョークレバーを引きます。 (外気温が15℃以下の場合)



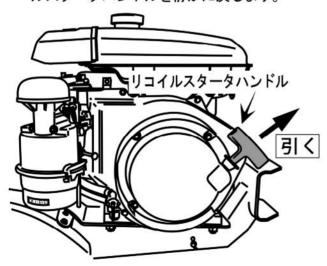
5) スロットルレバーを始動位置にします。



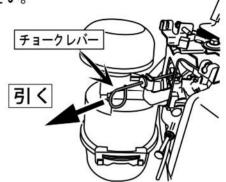
6) エンジンスイッチを押しながら「運転」の 位置まで回します。



7) エンジンリコイルスタータハンドルを握って 引っ張ります。エンジンが始動したらリコイ ルスタータハンドルを静かに戻します。



8) チョークレバーを引いてエンジンを始動した場合はエンジンの状態を確認しながら、チョークレバーを徐々に押し込んでください。



9) 2~3分暖機運転をしてから作業をはじめて ください。

重要

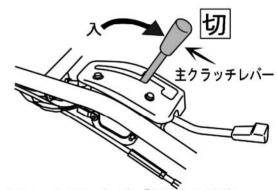
※ 運転中はリコイルスタータを引かないでください。

▲ 警告

※ 運転中はマフラがあつくなっていますので手を触れたり可燃物を近づけないでください。 ヤケドや傷害、火災のおそれがあります。

1. エンジンの停止

1) クラッチレバーを「切」にします。



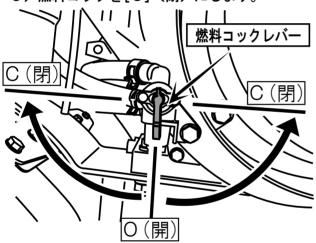
2) スロットルレバーを「低」にします。



- 3)主変速レバー、副変速レバーを「中立」にします。
- 4) エンジンスイッチを押すと左に回って「停止」 位置に戻りエンジンが停止します。



5) 燃料コックを[C] (閉) にします。



重要

※ コックを開いたままの状態で保管したり、車両 で運搬したりすると、エンジン始動が困難にな る場合があります。

また、クランクケース内へガソリンが流入する こともあります。

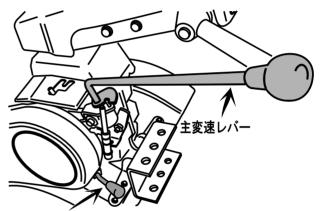
▲ 警告

- ※ 停止後はしばらくマフラがあつくなっています。手を触れないでください。ヤケドや傷害のおそれがあります。
- ※ エンジンが完全に冷えるまで、納屋にしまったりシートをかけないでください。火災のおそれがあります。

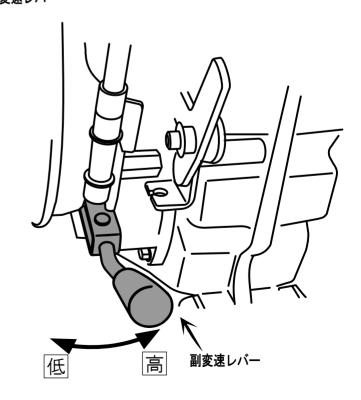
3. 発進のしかた

警告

- ※ 運転中は周囲に人を近づけないでください。 傷害事故のおそれがあります。
- ※ 傾斜地での運転や発進をするときなどはハンドルが持ち上がり、体や首がはさまれるおそれがありますので、主クラッチをゆっくり操作してください。
- ※ 狭い場所での運転や後進の運転については、 エンジンの回転を低速にし、後方や上部など まわりの安全を確かめてから主クラッチ操作 をしてください。
- 1)作業に適した速度になるよう主変速レバーと 副変速レバーを操作してください。

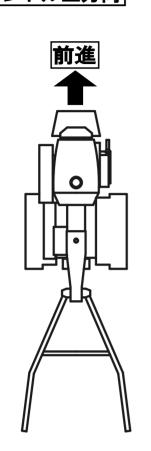


副変速レバー



■進行方向と変速

ハンドル正方向



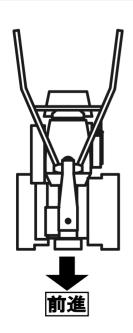
変速一覧

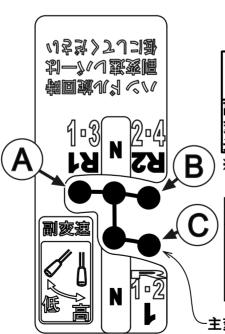
(ハンドル反エンジン側)



主変速レバーの指示位置

ハンドル逆方向





心を対〉アノコ動

副変速

変速一覧

(ハンドルエンジン側)

		圭	変	速
		A	B	0
副亦	低	後進1	後進2	前進1
速速	高	使用不可	使用不可	使用不可

※ ハンドルエンジン側では副変速は「高」に変速できません。

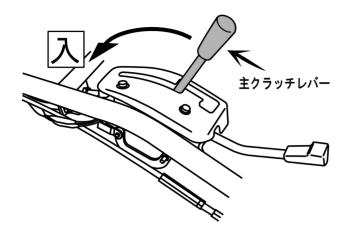
▲ 警告

ハンドルエンジン側操作時に副変速「高」に 変速できる場合は機械を使用しない。

「高」に変速できる場合、傷害事故のおそれ があります。速やかに購入先へ修理を依頼し てください。

主変速レバーの指示位置

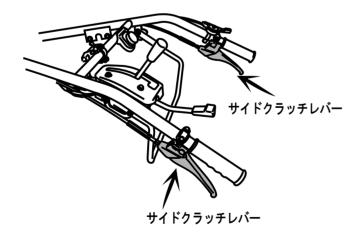
2) 主クラッチレバーを徐々に「入」にしてください。



3) 走行中の方向転換はサイドクラッチで行ってく ださい。

▲注意

- ※ 傾斜地ではサイドクラッチ操作に注意してください。左右同時に作動させると機体の制御が失われ傷害事故のおそれがあります。
- ※ トラックに積込む際はサイドクラッチを使用 しないでください。落下・傷害事故のおそれ があります。
- ※ サイドクラッチ操作はエンジンの回転を低速 にしてから行ってください。特に高速の時は 急旋回し傷害事故のおそれがあります。



● 右旋回

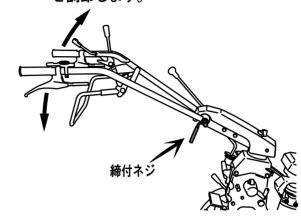
右側のサイドクラッチを握ります。

左旋回

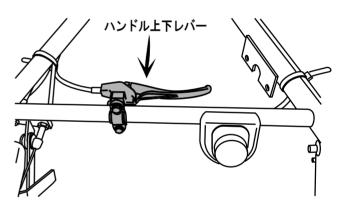
左側のサイドクラッチを握ります。

※ 回りたい方向のタイヤの駆動を切り支点として 旋回する機構です。反対側のタイヤの駆動が切れる場合は左右のサイドクラッチレバーを入替 えてください。

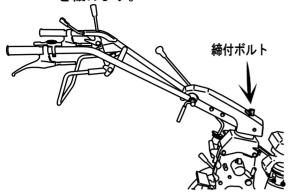
- 4) ハンドルを上下させ高さを調節します。
 - 4-1) 菊座による調節 締付ネジを緩め作業者の体格に合わ せ調節します。



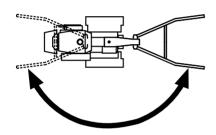
4-2) ハンドル上下レバーによる調節(2段) 作業中の旋回時に使用します。



- 5) ハンドルの旋回
 - 5-1) ハンドルボディー上部の締付けボルト を緩めます。

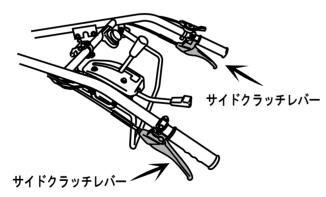


5-2)旋回ラベルに従いハンドルを旋回させ 締付けボルトで固定します。

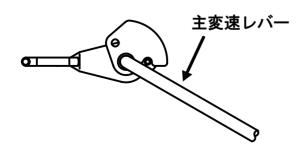


▲注意

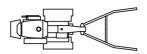
- ※ 旋回ラベルにしたがってハンドルを旋回してください。守らないとワイヤー破損など故障の原因となります。
 - 5-3) サイドクラッチレバーを入替えます。



- 5-4) ハンドル高さを調節します。(前頁 4) ハンドル高さの調節 参照)
- 5-5)主変速レバーを操縦者側へ向けます。

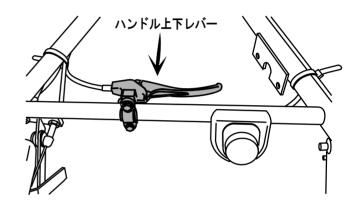


■ハンドルを正位置方向に旋回させた場合

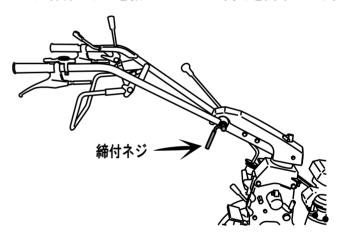


ハンドル正位置(足元にロータリー)の場合旋回 のためにハンドル側を持ち上げる必要があります。 旋回時にハンドルを低くセットできるように調節 します。

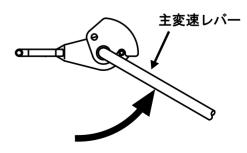
1) ハンドルの旋回5-1)~5-3)を行った後、ハンドル上下レバーを握りハンドルを上段にセットします。



2)締付けネジを緩めハンドルの高さを調節します。



3) 主変速レバーがハンドル側を向いていることを確認します。(主変速レバーを上向きに引き上げると回転させることができます)

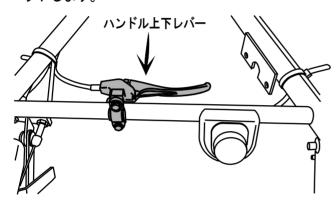


■ハンドルを逆位置方向に旋回させる場合

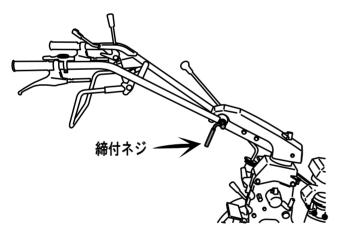


ハンドルエンジン側(足元にエンジン)の場合旋回のためにロータリー側を持ち上げる必要があります。旋回時にハンドルを高くセットできるように調節します。

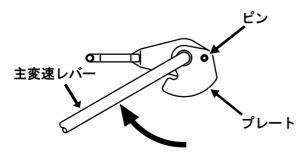
1) ハンドルの旋回5-1)~5-3) を行った後 ハンドル上下レバーを握りハンドルを下段にセットします。



2)締付けネジを緩めハンドルの高さを調節します。



3) 主変速レバーがハンドル側を向いていることを確認します。主変速レバーのプレートの穴にピンを入れてください。(主変速レバーを上向きに引き上げると回転させることができます)



▲警告

※ 主変速レバーはプレートにしっかりとピンを 通して完全に差し込んでください。機体が意 図しない動きをして死亡事故や傷害事故の危 険があります。

簡単な手入れと処置

廃棄物の処理について

▲警告

廃棄物をみだりにすてたり焼却すると環境汚染 につながり、法令により処罰されることがあり ます。

廃棄物を処理するときは

- ※ 機械から廃液を抜く場合は容器に受けてください。
- ※ 地面へのたれ流し、河川、湖沼、海岸への 投棄はしないでください。
- ※ 廃油・ゴム類・その他の有害物質を廃棄、 または焼却するときは購入先または廃棄物 処理業者等に相談して、所定の規則に従っ て処理してください。

日常の手入れについて

▲ 注意

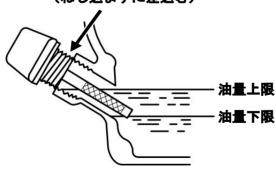
- ※ 給排油・点検・調節・清掃はエンジンを 停止しエンジンやマフラがじゅうぶんに 冷えてから行ってください。
- ※ 平坦な場所に機械を安定させ行ってください。

■エンジンオイルの交換

◆ 給油のしかた

エンジンを水平にしてオイルゲージを用いて規定量 まで入れます。

給油プラグ(オイルゲージ) (ねじ込まずに差込む)



◆ 排油のしかた

機体を安定させプラグをはずし排油してください。 この時、必ずオイルパン等で受けてください。

重要

- ※ 粗悪なオイルを使用するとエンジンの寿命を急激 に縮めます。エンジンオイルを交換・補充する際 には購入先でエンジンオイル10W-30とご指 定の上お求めください。
 - (次頁のオイルの点検と交換表を参照)
- ※ 排油・検油・給油後はプラグを確実に締めてください。

■ミッションオイルの交換

◆ 給油のしかた

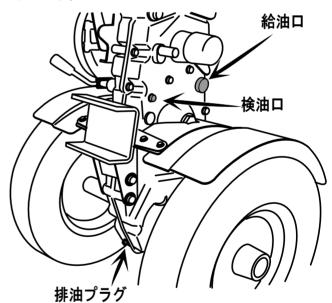
機体を水平にし検油口まで給油してください。 (付属の給油ジョウゴまたは口の長いオイルジョッキ を使用してください)

◆ 排油のしかた

ミッションケース下部にある排油プラグを外し排油しま す。この時、必ずオイルパン等で受けてください。

補足

※ 注油口の注油口栓を外すとオイルの出がスムーズになります。



- ※ 粗悪なオイルを使用するとミッションの寿命を急激に縮めます。ミションオイルを交換・補充する際には購入先でミッションオイル#90とご指定の上お求めください。
 - (オイルの点検と交換表を参照)
- ※ 排油・検油・給油後はプラグを確実に締めてください。
- ※ オイル交換をする場合は、排油プラグを外して排油しますが、ケース内のゴミも同時に排出させる ため、できるだけ運転使用後、オイルが温まって いる状態の時排出してください。

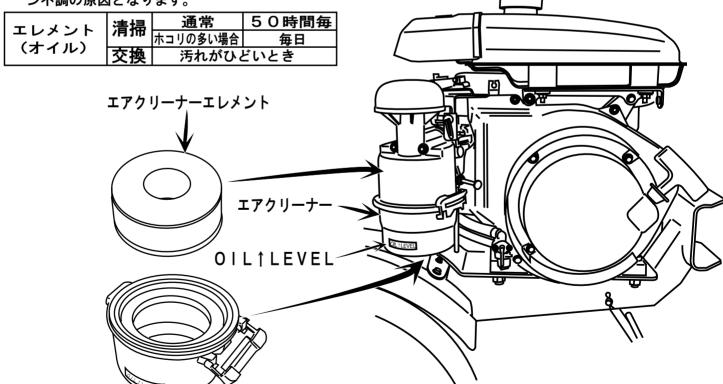
簡単な手入れと処置

給油箇所	種類	容量	交換時期
エンジン(GB300/GB290)	エンジンオイル 10W-30	1.00	50時間毎交換(新車25時間)
ミッションケース	ミッションオイル #90	4.3 l	5 0 時間毎交換(新車 2 0 時間)

■エアクリーナエレメントの清掃とオイル交換

- 1. エレメントは時々灯油で洗い、エンジンオイルを 塗布してよく振切ってから取付けてください。
- 2. オイルパンはよく洗浄し、新しいエンジンオイル を規定量入れてください。
- 規定量・・・OIL↑LEVELと記載されているところ

- ※ エアクリーナを取外したままエンジンを始動しないでください。ホコリやゴミを吸込みエンジン不調やエンジン異常摩擦の原因となります。
- ※ 汚れたまま使用すると、エンジン出力低下や故障の 原因になります。
- ※ チリやホコリの多い環境で作業する場合毎日点検してください。
- ※ 規定量よりエンジンオイルを入れすぎると、エンジン不調の原因となります。



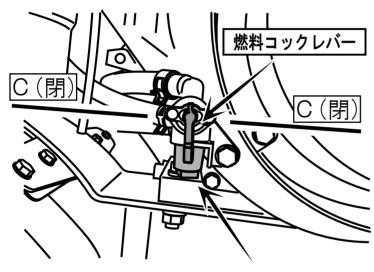
簡単な手入れと処理

■燃料フィルタの清掃

▲注意

- ※ 取付け後、ガソリンもれがないか確認してく ださい。
- 燃料フィルタは燃料のゴミを取り除きます。 取り除かれたゴミはポッドの底にたまります。
- 2. 燃料コックレバーを[C](閉)にしてフィル タポッドを外しポッドの底にたまっているゴ ミや水を捨てます。

100時間使用ごと	フィルタの清掃
300時間使用ごと	タンクの清掃

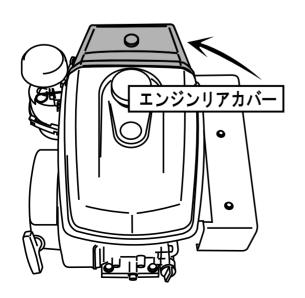


フィルターポッド

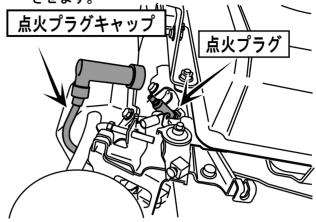
■点火プラグの調節・清掃・交換

▲ 注意

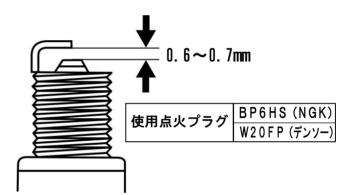
- ※ 高温部が冷えてから行ってください。
- 1. エンジンリアカバーを外します。



2. 点火プラグキャップを外し点火プラグを露出 させます。



- 付属のプラグボックスでプラグを外して電極 に付着したカーボンを取り除き、紙ヤスリで みがきます。
- 4. 電極の隙間は 0. 6 ~ 0. 7 mmになるよう調 節してください。
- 5. 点検清掃は6ヶ月に1回行ってください。



6. 作業が終わったら、点火プラグキャップを元 に戻してください。

- ※ プラグ締付け時はねじ山をつぶさないように はじめは手で締め込んでからプラグボックス で締付けてください。
- ※ 調整・清掃してもエンジンが不調なときは新 しいプラグと交換してください。
- ※ プラグを外したまま始動操作をしないでください。

簡単な手入れと処理

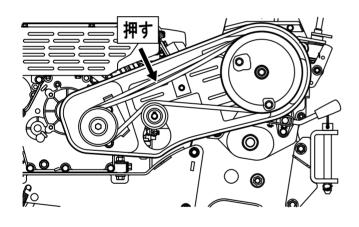
■ベルトテンションの調整

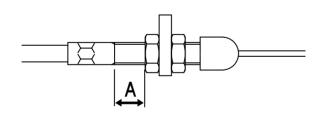
▲警告

- ※ ベルト調整を行う場合は、必ずエンジンを停止して行ってください。
- ※ 調節が終わったら必ずベルトカバーを取付けてください。巻き込まれるなど傷害事故を引き起こす恐れがあります。
- ※ エンジンを始動する前に、変速レバーを中立 にしてください。
- ※ 調節・確認時は周囲に人や動物を近づけないでください。傷害事故を引き起こす恐れがあります。

◆主クラッチケーブルによる調整

- 1. ベルトカバーのつまみボルトを外し、ベルトカバーを取外します。
- 2. 主クラッチを入れた状態でベルトの中央部を 指で押さえ10~15mmたわむ程度にナット で調節します。なお、使用初期はベルトが延 びやすいため10時間使用後に再調整を行っ てください。



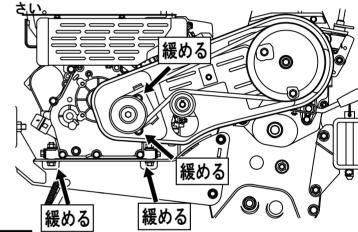


A部分を長くする	ベルトが張る
A部分を短くする	ベルトが緩む

◆エンジン前後によるベルトの調節

主クラッチケーブルで調整しきれない場合エンジン を前後に動かすことで調節します。

- 1. ベルトカバーを外します。
- 2. プーリーをとめているボルトを外し、ブーリー を引き抜きます。
- 3. エンジンと防護カバーを固定しているボルトを 緩めます。
- 4. エンジンベースとエンジンを固定しているボルト を緩めます。
- 5. エンジンを前後に動かしベルトの張りを調節します。
- ※ Vベルトが曲がらないよう、大小のプーリーが一 直線になるよう調整してください。曲がったまま 使用するとベルトの破損につながります。
- 6. 調整が終わったら各ボルトを確実に固定してくだ

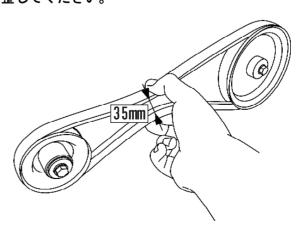


重要

- ※ 使用初期はベルトが伸びやすいため、10時間使用後に再調整してください。
- ※ 主クラッチケーブルを調子した場合、エンジンを始動してクラッチの[入][切]が確実に行えるか確認してください。クラッチが切れない場合は使用をやめ購入先へ調整を依頼してください。

◆新しいベルトに交換する場合

新しいベルトに交換する場合は、ベルト中央部を指で挟んで隙間が約35mmにたわむ程度に調整してください。



簡単な手入れと処理

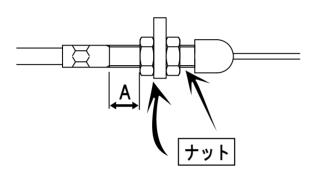
■ブレーキレバーの調節

▲ 警告

※ 必ず平坦な場所に安定させ作業を行ってくだ さい。

◆ブレーキケーブルによる調整

- 1. ブレーキレバー (主クラッチレバー) を駐車 位置ブレーキ[入]にします。
- 2. ブレーキケーブルのナットを緩めブレーキを 調節します。

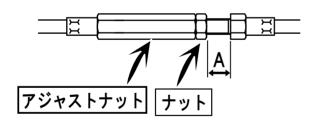


ブレーキを強くしたい	A部分を長くする
ブレーキを弱くしたい	A部分を短くする

3. 調節が終わったらナットを締めてください。

■ハンドル上下レバーの調整

1. ケーブル (ハンドル) にあるアジャストナット を固定しているナットを緩めます。



ハンドルががたつく	A部分を短くする	
ハンドルが動かない	A部分を長くする	

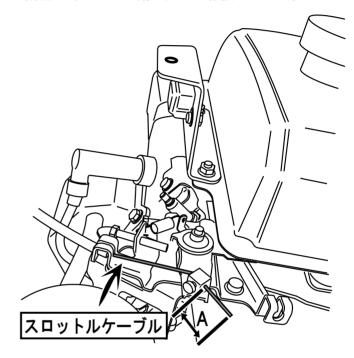
2. 調整が終わったらナットを締めてアジャスト ナットを固定してください。

◆スロットルレバーの調整

スロットルレバーを最高速にしてもエンジン回転が上がらないときは、スロットルケーブルを固定しているネジを緩めて調節します。

ケーブルのA部分の長さが長くなるように調節する とエンジン回転数が高くなります。

調整にあたっては購入先にご相談ください。



簡単な手入れと処置

使用後の手入れ

使用後は必ずその日に清掃を行い、各部についている土やゴミを落とし、各しゅう動部はさびないに油やグリスを塗布してください。特にファンカバー内にゴミが詰まるとエンジン焼付きの原因になりますのでよく清掃・点検を行ってください。

重要

※ 水洗いのときにエアクリーナ吸気口から水が 入らないように気をつけてください。

■エンジン始動不良を防ぐために

エンジン停止後、必ず燃料コックを閉めてください。

重要

※ コックを開いたまま保管したり、前に倒した たり、また車両で運搬するなどの行為はエン ジン始動が困難になる恐れがあります。 また、クランクケース内にガソリンが流入す ることもあります。

■長期保管時の手入れ

▲注意

- ※ カバーをかけたり、納屋に保管するときは 火災の恐れがあるためエンジンが冷えてか ら行ってください。
- ※ 燃料がこぼれたときは、きれいにふき取ってください。爆発・火災の恐れがあります。
- 1. ブレーキレバー(主クラッチレバー)を駐車ブレーキ[入]の位置にし、ブレーキをかけます。
- 燃料タンク・キャブレター・フィルターポット 内のガソリンは全て抜き取ります。 (1カ月以上使用しないとき)
- 3. オイルを交換し、各部をきれいに掃除します。
- 4. エアクリーナエレメントをきれいに掃除します。
- 5. エンジンのシリンダ内に湿気が入って始動が困難になることを防止するため、リコイルスタータハンドルを引張って、圧縮位置で止めておきます。
- 6. カバーをかけ、湿気や草、ワラ及びホコリのない場所に置きます。

重要

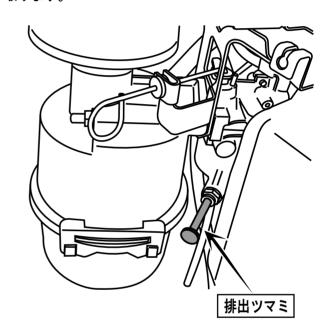
※ ほ場に保管していると、地面からの湿気が多いので錆やすくなります。

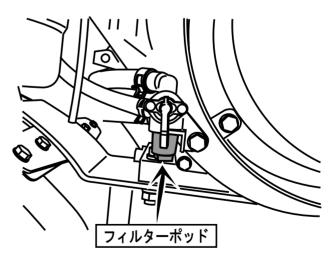
■燃料の抜取り

▲ 注意

- ※ 燃料を抜取るときはエンジンを停止し、エンジンが充分に冷えてから行ってください。
- ※ 火気厳禁。くわえ煙草での作業は絶対に行 わないでください。
- ※ 燃料がこぼれた時はきれいにふき取ってく ださい。

1カ月以上使用しない場合は、燃料タンクのガソリンはポンプなどで抜取り、キャブレター内にガソリンは排出ツマミを引いて、フィルタポットも外して全部抜取ります。





重要

-----※ ガソリンをそのままにしておくと、燃料タンク やキャブレター内のガソリンが変質し、次の始 動が困難になります。

簡単な手入れと処置

洗車時の注意

高圧洗浄機の使用方法を誤ると人に怪我をさせたり、機械を破損・損傷・故障させることがありますので、高圧洗浄機の取扱説明書・ラベルにしたがって、正しく使用してください。

▲注意

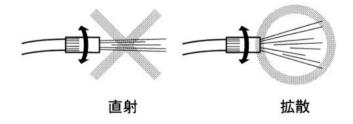
機械を破損させないように洗浄ノズルを拡散に し2m以上離して洗浄してください。

もし、直射したり不適切な距離から洗車すると

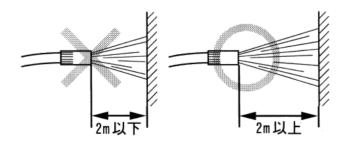
- 1. 電気配線部被服の破損・断線により、火災を引き起こす恐れがあります。
- 2. 機械の破損・損傷・故障原因になります。
- 3.機械の破損・損傷・故障の原因になります。
 例) (1) シール・ラベルのはがれ。
 - (2) 電子部品・エンジン等へのしん入による故障。
 - (3) 車輪・オイルシール等のゴム類樹脂 類等の破損。
 - (4) 塗装、メッキ類の皮膜はがれ。

■長期保管時の手入れ

直射洗車厳禁



近距離洗車厳禁



管理機を運搬するとき

自動車(トラック)への積込み、運搬。

▲注意

- ※ 積込み、運搬は平坦な交通の邪魔にならない安全な場所で行ってください。
- ※ アユミ板はすべり止めのついた、機体重量 に耐えられるもので、トラックの荷台高さ [1]に対してアユミの長さ[4以上]ものを使 用し、確実に固定してください。
- ※ 足元に注意し車速は最低速で上りは[前進]、 下りは[後進]で行ってください。
- ※ 途中で主クラッチを切ったり、変速操作を 絶対にしないでください。落下・転倒の恐 れがあります。
- ※ トラックは、荷台に天井がない車を使用してください。首や体をはさむ恐れがあります。
- ※ トラックでの運搬時は、タンク内のガソリンの量を積込み・積降ろしに必要な最低限の量とし、残りのガソリンは別に用意していた法で定められたタンクに移して運搬してください。火災の恐れがあります。
- 1. トラックを平坦な場所に止め、駐車ブレーキを かけます。
- 2. アユミ板を荷台に確実に固定します。
- 3. 車速は最低速で上りは[1速]で、下りは[後進] にします。
- 4. 機体の駐車ブレーキを作動させます。
- 5. 機体は荷台にロープで確実に固定します。
- 6. 燃料コックレバーを[閉]にします。
- 7. 雨天時はエアクリーナの吸気口にカバーをかぶせてください。

- ※ ロープをかけるときは、変速レバーや樹脂カバー 小物部品にロープが触れないよう気をつけてくだ さい。破損したり機能が損なわれる恐れがあります。
- ※ エアクリーナの吸気口にカバーをかぶせないで運搬すると、雨水や砂ボコリが入り、エアクリーナ性能が低下します。
- ※ 燃料コックレバーを[開]いたまま運搬すると、キャブレター内でガソリンがオーバーフローし、エンジン始動が困難になります。またクランクケース内にガソリンが流入することもあります。

主要諸元

販売型式名		販売型式名	KK10	KK9
機	全長 (mm)		1640	
体寸	全	幅 (mm)		640
法	全	高 (mm)	1	376
装	備重	量量 (kg)	150	149
エ	型되	式名	GB300LN-336	GB290LN-337
	種類		空冷4サイクル傾斜型横軸OHVガソリンエンジン	
ン		非気量(L{cc})		96{296}
	連絡	売定格出力(kW{PS}/rpm)	5.5{7.5}	4.4{6.0}
ジ		用燃料	自動車用無鉛	レギュラーガソリン
`		料タンク容量 (L)		5.4
		骨油容量 (L)		1.0
_		動方式	リコイルスタータ	
走	タイヤ		4.00-9(φ460mm)又は19-8.00-10	
	車軸管		直径460mm、幅100mm(最大111mm)	
	車軸形状		ϕ 39.5 × 226	
	輪距(中心間距離)(mm)		337mm、397mm、457mm、517mm ベルト、ギャ	
	伝達方式 走 前進1速(後進1速)		ヘルト、ナヤ 0.9km/h(0.2m/s)	
行	Æ		1.5km/h(0.4m/s)	
	行			(h(0.8m/s)
			5.2km/h(1.4m/s)	
	速		0.8km/h(0.2m/s)	
	度 後進2速		3.0km/h(0.8m/s)	
部	(A)		 ノエンジン側速度)	
注		定格回転数 (rpm) 1800		800
		プーリ外径 (mm)		, φ177.8
件		車輪	·	ϕ 460mm)
P T	軸	形状		スプライン
0	回	転 数	81	6rpm

トラブルと対処

■エンジンが始動しないとき

ファッカ 知 切しないこと	
原因	処 置
● 始動の手順が間違っている。	正しい順序で始動する。(6ページの「運転のしかた」
	を参照)
● タンクにガソリンを入れたまま1ヶ月以	タンク・キャブレター内の劣化したガソリンを排出し新
上保管しガソリンが劣化した。	しいガソリンを入れる。
● フィルタポットに水やゴミが混入してい	ポットを外してフィルタエレメントを掃除する。または
る。	新しいものと交換する。
	キャブレター内のガソリンも排出する。
● チョークを引いた(閉じた)状態でリコ	チョークを戻し(開き)リコイルを引くか、点火プラグを
イルを何度も引きガソリンを吸いすぎ	外して乾燥させる。
た。	
● エンジン停止後、燃料コックを閉じない	クランクケース内にガソリンが混入していたら新しい
で本機を前に倒したり、車両で運搬し	エンジンオイルと交換する。
たため、キャブレターがオーバーフロー	
した。	
● エアクリーナエレメントが目詰まりして	エレメントを外して清掃する。
いる。	または新しいものと交換する。
■ 点火プラグの花火が弱い、飛ばない。	点火プラグを外して付着したカーボンを清掃する。ま
	たは、新しいものと交換する。

■エンジン回転数が上がらない、不安定、出力が不足するとき

原因	処 置
● エンジンが暖まってもチョークを引いた	チョークを戻す(開く)。
(閉じた)まま運転している。	
● フィルタポッドに水やゴミが混入してい	
る。	キャブレター内のガソリンも排出する。
● エアクリーナエレメントが汚れている。	
● スロットルケーブルの引っ張りが不足	ケーブルのセット位置を調節する。
している。	

■エンジンが振れる、異音が発生する。

原因	処 置
エンジン取付ボルトがゆるんでいる。	取付ボルトを締付ける。

■ハンドルのガタが多い

■ハンドルのカンスル・シャ・	
原因	処 置
ハンドル回転部のガタが多い。	ハンドル締付ボルトを締め直す。
	ハンドル締付ナットを締め直す

上記の処置をしてもトラブルが直らないときは、購入先にご相談ください。

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後9年といたします。ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期等でご相談させていただく場合もあります。 補修用部品の供給は、原則的に上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。 市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする 原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは一番よくマッチするよう研究され、徹底した品質管理 のもとで生産・出荷されていますので、安心してお使いいただけます。 市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短く する原因となります。

品番 229000000751000



関東農機株式会社

本社工場/本社営業所

鏡石工場/福島営業所

盛岡工場/東北営業所

九州営業所

〒323-0819 栃木県小山市横倉新田 493
TEL 0285(27)3271(代) FAX 0285(27)4627
〒969-0403 福島県岩瀬郡鏡石町久来石字大町 57
TEL 0248(62)4131(代) FAX 0248(62)4133
〒028-4132 岩手県盛岡市玉山区渋民字岩鼻 20-55
TEL 019(683)1911(代) FAX 019(683)1119
〒866-0813 熊本県八代市上片町 1351
TEL 0965(31)0730(代) FAX 0965(31)0760

・製品のご相談は下記の販売店へ